

目次

- ア 学則変更（収容定員変更）の内容 . . . p. 1
- イ 学則変更（収容定員変更）の必要性 . . . p. 1
- ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容 . . . p. 3

学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア 学則変更（収容定員変更）の内容

神戸女子大学家政学部管理栄養士養成課程及び健康福祉学部健康スポーツ栄養学科の入学定員、3年次編入学定員、収容定員を次のとおり変更する。

学部・学科	現行			変更後		
	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
家政学部 管理栄養士養成課程	140人	20人	600人	150人	10人	620人
健康福祉学部 健康スポーツ栄養学科	60人	—	240人	80人	—	320人

イ 学則変更（収容定員変更）の必要性

学校法人行吉学園は、昭和15年に神戸新装女学院を設置し、被服教育を皮切りにスタートした。その後の行吉学園の歴史は、昭和25年に神戸女子短期大学を設置して、被服、栄養、初等教育関係の学科を順次展開し、昭和41年には神戸女子大学を開設した。最初に家政学部を設置し、昭和44年に文学部、昭和59年に大学院家政学研究科、昭和61年に大学院文学研究科、平成18年に健康福祉学部、さらに、平成27年4月から看護学部を開設し、平成28年4月からは、大学院健康栄養学研究科を開設する。

本学園は、現在の学部・学科構成からも分かるとおり、女性の特性を活かして「人々の健康な暮らしと文化」に貢献できる分野を中心に展開してきており、時代とともに社会が必要とする人材の変化に対応してきた。近年では、平成18年に健康福祉学部を設置し、本格的な超高齢社会を迎えての介護予防、健康づくりが国民的課題となり、少子高齢化に対応した新しい文化・福祉の発展と創造の拠点としての役割が大学に求められるようになってきたことから、「福祉」と「健康」という2つの要素を統合した理論的・実践的能力を備えた人材の育成を図ろうとするものである。さらに、平成27年4月に開設した看護学部では、超高齢社会を迎え、在宅での医療サービスのニーズの高まりや生活習慣病の予防のニーズも高まっている現状を鑑み、それらの役割を担う看護職要請が高まってきていることから、専門知識と看護実践を統合した総合実習を積極的に行い、かつ、さまざまな病院などで各領域、資格に応じた臨地実習を実施し、患者らとのあたたかな人間関係を築ける看護職の育成を目指したものである。

大学を取り巻く社会情勢が大きく変化してきている中で、本学園は、時代とともに対応してきた結果、社会からは高く評価され志願者数は高い水準が維持されている。中でも多くの志願者数や志願倍率の高い家政学部管理栄養士養成課程、健康福祉学部健康ス

スポーツ栄養学科の入学定員及び収容定員を増員し、さらに地域社会に貢献できる優秀な人材を輩出したいと考えるものである。

(1) 家政学部管理栄養士養成課程

本課程は、昭和 43 (1968) 年に設置され、40 年以上に亘り、卒業生が管理栄養士として病院での勤務、食品メーカー、行政機関等への就業、教員への採用等、幅広いフィールドで活躍する人材を輩出してきた。近年は食の多様化や少子高齢化、生活習慣病への対応が求められる中、社会全般、中でも教育、医療分野で「食」が重視されている。特に、生活習慣病の改善と予防が大きな課題となっており、生活習慣病の代表格である糖尿病有病者（糖尿病が強く疑われる者）の割合は、男性 15.5%、女性 9.8%であり、50 歳以降にその割合が増えることがわかっている（厚生労働省：「平成 26 年（2014 年）国民健康・栄養調査」）。また、高血圧と言われたことがある者の割合は男性 37.2%、女性 31.3%、脂質異常症が疑われる者の割合が男性 22.3%、女性 17.7%となっている（厚生労働省：「平成 22 年（2010 年）国民健康・栄養調査」）。従って、中高年の多くが何らかの生活習慣病をもっていて、それが将来重大な健康障害になる可能性がある。まさに、このような状況を踏まえて、必要性が高まっているのが食のエキスパートである「管理栄養士」である。

本学、管理栄養士養成課程の入学定員を増員する理由としては、常に高い志願倍率（平成 23 年度から 27 年度の 5 年間の実質倍率の平均 7.9 倍）のために定員オーバーの懸念があることの対応と経営の安定化を図ることがある（資料 1）。3 年次編入学定員を減員する理由としては、教育カリキュラムの影響を最小限に留めることにある。学生を厳選しながら 3 年次編入学生への対応をきめ細かく行うことを可能にするため減員を行い、クラス編成や実習先の確保に影響を少なくするため、3 年次編入学定員 10 人減と入学定員 10 人増を行う。このことで、1 年次から本課程が目指している幅広いフィールド、病院や行政機関、教育機関、企業をはじめ保育所や福祉施設などで活躍できる人材を育てるための教育に対応するべく学生を多く確保し、多くの質の高い人材を輩出するとともに、地域社会の要請に応え貢献することが、まさしく本学の社会的使命であると考え、3 年次編入学定員を減員し、入学定員、収容定員を増員するものである。

(2) 健康福祉学部健康スポーツ栄養学科

本学科は、平成 21 (2009) 年に設置され、加速する少子高齢化社会の中で健康や福祉のニーズは高まり、医療施設におけるチーム医療の一員として、疾病ならびに障がいをもった方への栄養指導、健康増進や維持及びスポーツ施設等でのスポーツ（運動）を加味した栄養指導等は社会のあらゆる場面に広がっている。そうした新しい時代の社会的要求に応えるために、ただ生きるのではなく、より健康で生き生きとした暮らしを手

入れるための方法を科学的に追究する学科であり、健康問題を的確に捉え解決しうる実践的応用能力を身に付けた健康の専門家養成を目指している。

現在、「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」を目指す「第4次国民健康づくり対策（21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21（第2次））」が展開されており、健康寿命の延伸が喫緊の課題であるとされている。平均寿命と健康寿命との差は、日常生活に制限のある「不健康な期間」を意味しており、この期間を短くすることが重要な施策の一つである。平均寿命と健康寿命の差は、平成22年で、男性9.13年、女性12.68年になっている（厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会・次期国民健康づくり運動プラン策定専門委員会「健康日本21（第2次）の推進に関する参考資料」p24、平成24年7月）。さらに、平均寿命は、平成13年と平成22年を比べると男性は1.48年、女性は1.37年延びているが、健康寿命については、平成13年と平成22年を比べると男性は1.02年、女性は0.97年しか延びておらず、平均寿命の延伸とともに「健康な期間」だけでなく「不健康な期間」も延びていることが特に問題視されている。つまり、平均寿命が延びる以上に健康寿命を延ばす（不健康な状態になる時点を遅らせる）ことが、個人生活の質（QOL）の低下を防ぐ観点や、社会的負担・医療費軽減の観点からも重要である。

また、本学科の入学定員を増員する理由として、常に高い志願倍率（平成23年度から27年度の5年間の実質倍率の平均が8.2倍、入学定員超過率は1.17倍）のために定員オーバーの懸念があることへの対応と経営の安定化を図ることがある（資料1）。

以上の状況を踏まえて、本学科は、栄養士の養成を基点に「健康栄養」と「スポーツ栄養」の2つのカテゴリーを設け、栄養と運動との関わりについての幅広い知識とスキルの修得を図るとともに、子どもたちの食育・栄養教育や中高齢者の健康維持・介護予防など、高い実践力と専門性を持つことで、今後、ますます進む少子高齢化社会に応え、地域社会の要請、社会の発展に寄与することは、まさしく本学の社会的使命と考え、入学定員、収容定員を増員するものである。

ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

(ア) 教育課程の変更内容

① 家政学部管理栄養士養成課程

本課程では、入学定員10人の増員（140人から150人）に伴い1年次生、2年次生は増員となるが、3年次編入学定員を10人減員とするため、3年次、4年次の定員の変更はないことから、3年次から開講される学外実習等への影響はない。また、1年次生と2年次生においても、栄養士法施行規則第9条で同時に授業を行う学生の数をおおむね40人であることと示されており、従来と同様40人の倍数を下回る人数であることから教育効果を妨げる人数ではなく、教育の質を低下させるとは考えられないことから、今回の定員変更に伴う教育課程の変更は行わない。

本課程では、幅広い講義と現場さながらの実習、充実した教育環境を用意し、高度な知識と技術を持ち、食の分野をリードする「管理栄養士」の養成を目指しており、教育課程の主な開講科目としては、専門基礎分野、専門分野、教養・資格等に分類されている。また、教育のポイントとしては次の3つを掲げている。

(a) 質の高い管理栄養士を養成

管理栄養士の国家資格は、栄養士以上の知識と技術が必要とされる高度専門職であり、医師や薬剤師と共にチーム医療の一端を担うほか、食品会社の開発部など研究職としても需要が高く、将来性のある有望な資格である。

(b) 目指す進路に対応する幅広い授業展開

病院や保健所、教育機関、企業など実社会で管理栄養士の活躍するフィールドはさまざまであり、本課程では卒業後に即現場に対応できる実践力を身に付けるための「臨地校外実習」や「総合演習」といった現場体験型の授業を開講している。

(c) 多彩な資格に対応したカリキュラム

本課程では資格取得にも積極的にさまざまなサポートを行い、豊かで安全かつバランスのとれた食を消費者に提供できる力をもつ食のスペシャリストであるフードスペシャリストや、中学校・高等学校教諭一種免許状（家庭）と栄養教諭一種免許状などの多様な資格取得にも対応した教育課程を編成している。

なお、教養科目等の全学共通教養科目や学部共通科目等、他学部等に影響を与える授業科目等はない。

② 健康福祉学部健康スポーツ栄養学科

本学科では、入学定員を20人増員し、80人とする事となるが、栄養士法施行規則第9条で同時に授業を行う学生数は、おおむね40人であることと示されていることから、従来の2クラス編成を変更しなくても規則に沿うこととなり、教育の質は充分確保されていると考えられ、定員変更に伴う教育課程の変更は行わない。本学科の主な開講科目は、栄養士関連科目、スポーツ栄養関連科目、健康運動実践指導関連科目、ライフサイエンス関連科目、健康・福祉関連科目、資格関連科目及びその他の科目に分類されている。また、教育のポイントとしてはつぎの4つを掲げている。

(a) 「栄養学」に基づく運動と健康の学び

「運動生理学」や「スポーツ栄養学」などの多彩なカリキュラムを開講している。「栄養学」をベースに運動や健康づくりに関連する知識を習得し、さまざまな現場で実習を重ねて将来スポーツ栄養士として活躍できる実践力を養うことを目指す。また、栄養士と併せて健康運動実践指導者の受験資格を取得することで栄養指導とともに運動指導ができる人材を育てる。

(b) 栄養士のほか食と健康に関わる各種資格の取得

栄養士免許の取得はもちろん、管理栄養士（1年間の実務経験必要）や実践健康教育士（卒業後講習及び1年間の実務経験必要）、フードスペシャリストなどの受験資格、学校での食育教育に携わる栄養教諭二種免許の取得が可能。在学中に管理栄養士国家試験対策講座も開講される。

(c) 国際的な視野を養うプログラム

アスリートのための栄養指導はもとより、日本人の生活習慣病予防や健康づくりだけでなく、世界の国々が抱える栄養や健康の問題にも目を向け、実際に海外で行う栄養調査などにも参加できる機会もあり、栄養士の国際的な活躍のフィールドも模索する。

(d) さまざまな将来の進路

アスリートへの栄養指導だけでなく、健康志向が高まる近年では、健康増進施設や福祉施設、個人の栄養指導など、栄養士のフィールドは広がるばかりであり、栄養の効率よい摂取を目指すサプリメントの分野でも活躍が期待される。

なお、教養科目等の全学共通教養科目や学部共通科目等、他学部等に影響を与える授業科目等はない。

(イ) 教育方法及び履修指導方法の変更内容

① 家政学部管理栄養士養成課程

本課程では、定員変更に伴う教育方法及び履修指導方法の変更は行わない。

本課程では、人材養成の目的のひとつである高齢化社会を迎えた日本の社会に「食と健康」のプロフェッショナルを送り出すことから各学年の学習ステップを次のとおりとしている。

1年次

4年間の基礎となる1年次生では、教養ある専門職を目指して専門科目に加えて全学共通教養科目を履修する。また、特に食と健康のプロフェッショナルである管理栄養士となるために絶対的に必要な生物学、化学などの基礎的かつ幅広い科目を開講する。

2年次

1年次生に引き続き全学共通教養科目を履修するが、管理栄養士資格取得のための専門科目の中では、特に基礎的分野の講義を中心に学び、フードスペシャリストなどの資格取得に必要な選択科目も開講するため、卒業後を見据えた履修登録が必要となる。

3年次

栄養管理業務・栄養指導業務において特に複雑、困難なものを行う適格性を持つ「専門職」が管理栄養士であり、必要とされる広範な知識と技術を獲得するため、3年次生からは専門科目が大幅に増え、給食施設や病院などでの学外実習も開始される。

4年次

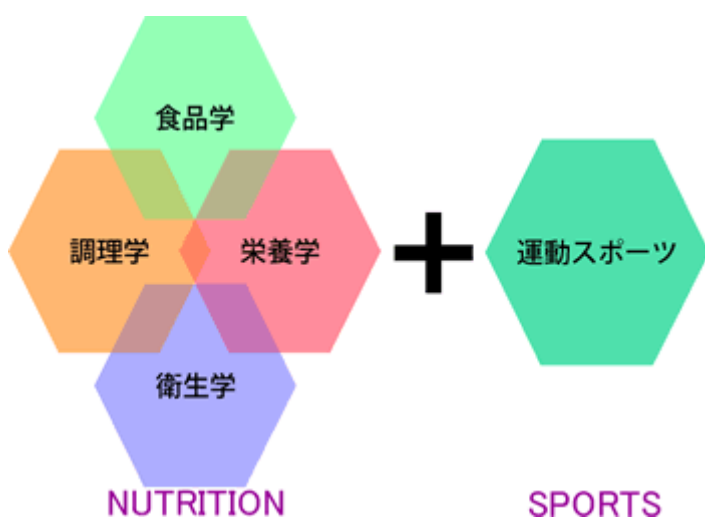
開講科目中でも特に専門性の高い専門科目を中心に学ぶほか、管理栄養士国家試験対策など、カリキュラム外のサポートも利用して試験に備え、各自ゼミ研究室にわかれて卒業論文作成のための実験・研究を行う。

なお、クラス編成は40人を基本としており、4クラス編成のため入学定員増加による教育課程上の問題はなく、実習については入学定員を140人から150人に増員しても、3年次編入学定員を20人から10人とすることから、学外での実習が始まるのが3年次からであり、学外実習人数の増加はないため現実習施設への影響もない。

② 健康福祉学部健康スポーツ栄養学科

本学科では、定員変更に伴う教育方法及び履修指導方法の変更は行わない。

人材養成の目的を達成するために教育方法及び履修指導方法として、栄養士の資格取得のためのカリキュラムを基本に、食育（Nutrition Education）、健康維持（Health Management）、スポーツ（Sports Conditioning）の3領域の教育と研究を進め、将来の進路に合わせて栄養士に付加する資格や学問を選択していく。また、選択科目として海外での栄養調査・研究など、国際的な視野を養うプログラムも開講している。



NUTRITION

アスリートに対する食事・栄養指導、子どもたちの食育・栄養教育、中高齢者の健康維持や介護予防など、スポーツや健康に照準を合わせた栄養・食品・衛生・調理学を学んでいく。

SPORTS

プロとして活躍しているアスリートをはじめ、スポーツのクラブチーム、学校の運動系クラブ、ジュニアスポーツチームなどと提携し、運動をサポートする食事指導を行っ

ていく。

本学科は平成 29 年度から入学定員を 60 人から 80 人に増員するが、クラス編成（現在は 2 クラス）は管理栄養士養成課程と同様に 40 人を基本とし、対応可能である。また、3 年次から実施する学外実習先においても、神戸女子短期大学食物栄養学科の入学定員を平成 29 年度から 20 人減員する予定であり、栄養士養成施設の学外実習先も 20 人減少することから調整可能である。

なお、教養科目等の全学共通教養科目や学部共通科目等、他学部等に影響を与える授業科目等はない。

(ウ) 教員組織の変更内容

① 家政学部管理栄養士養成課程

本課程の現在の教員組織は、大学設置基準（9 人（家政学部が二以上の学科で組織している））を大幅に上回る教授 14 人、准教授 9 人、講師 1 人の計 24 人（その他助手 8 人）で構成され、毎年、管理栄養士国家試験の合格率は高い水準を維持しており、収容定員 20 人（入学定員 10 人増、3 年次編入学定員 10 人減）増員しても、これまでの教育の充実は保たれるものとする。従って、今回の収容定員の増加に伴う教員組織の変更は行なわない。

② 健康福祉学部健康スポーツ栄養学科

本学科の教員組織を基礎としての大学院が平成 28 年 4 月に開設され、学部・学科の教員としては、充実した教員組織となっている。平成 29 年 4 月より入学定員 20 人を増員したとしても、クラス数から見て十分教育水準を維持できると考え、変更前と比較しても同等の教育内容が担保されているものとする。

(エ) 大学全体の施設・設備の変更内容

① 家政学部管理栄養士養成課程

本課程の施設・設備については、須磨キャンパスにおいて現在専用として使用している部分を継続して使用する。クラス数も現行の 4 クラスでの運用とし、1 クラス当たりの学生数が 3 人程度増員となるのは 1 年次生と 2 年次生のみであり、現施設、設備のままで対応可能である。3 年次生、4 年次生については、編入学定員を 10 人減員することから同人数となることから、変更せず対応可能である。

② 健康福祉学部健康スポーツ栄養学科

本学科の施設・設備については、ポートアイランドキャンパスにおいて現在使用している部分を継続する。クラス数も現行の 2 クラスでの運用とし、1 クラス当たりの人

数を 40 人として運用する。40 人での運用は、施設として充分対応できるものであり、神戸女子短期大学との共用部分では、食物栄養学科の入学定員を 20 人減員することからも施設・設備について充分対応できるものであることから変更はない。また、学外実習施設においては、現在、神戸女子短期大学食物栄養学科で依頼している学外実習施設に、20 人増員分を振替える。

(添付資料)

資料1. 神戸女子大学家政学部管理栄養士養成課程、健康福祉学部健康スポーツ栄養学科の志願者・入学者などの動向

神戸女子大学家政学部管理栄養士養成課程、健康福祉学部健康スポーツ栄養学科の
志願者・入学者などの動向

学部学科		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平均値
家政学部 管理栄養士養成課程	(C)志願者	2,626	2,287	2,288	2,117	1,865	2,237
	(D)受験者	2,621	2,279	2,283	2,110	1,858	2,230
	(E)合格者	305	279	261	290	278	283
	(F)実質倍率 (D)/(E))	8.6	8.2	8.7	7.3	6.7	7.9
	(A)入学者	162	146	149	134	150	148
	(B)入学定員	140	140	140	140	140	140
	定員超過率A/B	1.15	1.04	1.06	0.95	1.07	1.05
健康福祉学部 健康スポーツ栄養学 科	(C)志願者	949	998	965	929	740	916
	(D)受験者	947	994	962	925	735	913
	(E)合格者	114	116	111	110	107	112
	(F)実質倍率 (D)/(E))	8.3	8.6	8.7	8.4	6.9	8.2
	(A)入学者	70	75	76	67	64	70
	(B)入学定員	60	60	60	60	60	60
	定員超過率A/B	1.16	1.25	1.26	1.11	1.06	1.17